

単元名：

絵の具で表す匠の技

(全5時間扱い中 第1時)

授業日時 2019年9月3日(火) 第2校時

授業学級 1年E組

授業会場 美術室

授業者

指導者

(1) ねらい

透明描法と不透明描法の表せる雰囲気の違いを理解し、描き分けることができる。

(2) 授業のポイント

- ・透明描法と不透明描法の方法について学び、それらを実践する。
- ・2つの描画方法を学び、どのような絵が表せそうか考える。

(3) 展開

過程	学習活動	○授業者の主発問・◇留意点・★教材	時間
導入	1. 初めての写生会参加について考える。	○初めて迎える写生会についての抱負や頑張りたいこと、不安なこと等を問う。 ◇あまり深く聞かず、数人に簡単に確認する。	2分
	【学習問題】どのようにしたら絵の具をつかって描くことができるだろうか。		10分
	2. 透明描法と不透明描法を学ぶ。	◇生徒を黒板の前に集め、透明描法と不透明描法の作品例を提示し、鑑賞する場を設け色の重なりや受ける印象や雰囲気が異なることを確認する。 ◇示範を通して、透明描法と不透明描法では水の量を変えて描くことを確認し、2つの技法共に筆の使い方や明暗の位置を意識して行うことを伝える。 ◇透明描法では白と黒は使わず不透明描法では黒を使わずに制作するよう声を掛ける。 ★テレビモニター	
	【学習課題】透明描法と不透明描法を使い分けてみよう。		
展開	3. 実際にワークシートを使って、透明描法と不透明描法を描いてみる。	○リンゴ枠が描かれたワークシートを使って、透明描法と不透明描法の描き方を練習するよう声を掛ける。 ◇15分経ったら、もう一方も描くよう声を掛ける。 ◇透明描法と不透明描法どちらか一方ではなく両方描けるよう声を掛ける。 ◇水の量がわからない生徒に対し、透明描法と不透明描法の適切な水の量を確認する。 ◇描いた色が濁ってしまっている生徒に対し、もう一方を描いて紙が乾いてからまた色を描くよう声を掛ける。 ◇枠からはみ出してしまう生徒に対し、筆先を整え尖らせ、力の入れ方に変化をつけて描くことができることを確認する。 【評価】透明描法と不透明描法の違いに気づき、描き分けることができる。	30分
	終末	4. 本時の振り返りをワークシートに記入し発表。	◇本時の活動を振り返ってどのようなところが難しかったか、写生会でどのような絵が表すことができそうか記入し発表。